



# 園長だより

NO.3 2023年12月 園長 押部 直也

早いもので2023年も残りわずかとなりました。今回の園長だよりでは、0歳児～2歳児クラスの生活に焦点を当ててお伝えしていきたいと思えます。この時期に大切にしたいことの理想と現実。今の日本の状況と合わせて考えてみました。私自身も家庭では、子育ての理想と現実に一喜一憂しながら日々過ごしているため、この思いもお伝えできたら良いと思えます。

## \*乳児期に大事にしたいこと（理想のお話…）

本当はここで「発達段階」や「愛着形成」などの詳細を加えたいところではありますが…、想像するだけでとても長文になるため割愛します。

大まかにいうと、乳児期(1歳半くらいまで)は泣いて欲求を伝える時期といわれています。そして、特定のおとながその欲求を推測して満たしてあげることが繰り返すことで、人への信頼感や安心感が育まれるそうです。

現在の研究では、この乳児期での信頼感や安心感が後々の生活に大きな影響を与える重要な要素であるといわれています。私達保育者もこの“欲求を推測して満たしてあげる”ということを乳児期では特に意識をして保育を行っております。ただ、欲求を満たしてあげる保育者を固定しきれない部分が、大きな課題として挙げられています。

この乳児期での特定のおとなの信頼感や安心感を土台にすることで、その後は「自分でやってみよう！」という気持ちが芽生えてくる時期へと移ります。この“挑戦する気持ち”も今後の成長にとっても重要な要素となってきますが…、それは遠い未来に配信される予定の幼児期 Ver. の園長だよりをご期待ください。(笑)

「自分でやってみよう！」という気持ちの裏側には、“うまくいなくても受け止めてくれる特定のおとながいる”という信頼感や安心感があってこそだといわれています。つまり、おとなへと成長していくプロセスの中で、この信頼感や安心感が根幹になるといっても過言ではないようです。

乳児期の子どもの欲求に対して、特定のおとなが目を見て受け止め、推測して満たしてあげる。これを繰り返すことが子どもにとってとても大事である。…私は、家庭においてはこれが理想論だとあえて伝えたい。難しい理由はこの後の現実的な話の部分でお伝えするとし

て、今の私は、家庭では口が裂けても叶えてあげられているとは言えません。ただ、この理想論を頭の片隅にちらつかせながら奮闘しております。保護者の皆様もぜひ頭の片隅に入れていただければ幸いです。

## \*子どもの視点で家庭と園生活を考える

これは0歳児～2歳児クラスに限ったことではありませんが、子どもの視点で考えた時に家庭と園生活の大きな違いは「集団での生活」であるということだと思います。私達はこども園に通ってくれる子ども達に、安心感や楽しい場所として認識してもらえるよう努力をします。その中でどうしても切り離せない部分が「集団での生活」であるということです。

「集団での生活」による良い効果もたくさんあるため、悪いわけではありません。ただ、おとなでも集団で生活することを想像すると、たとえ楽しい集団だと認識していたとしても、家でゆっくり過ごす時間は確保したいと感じます。それはこどもの視点で考えた時にも同じことが言えると思います。何も特別なことをしていなくても、家庭にいる時間は子ども達にとって重要な時間であると思っただけで幸い。

## \*日本の社会の中で子育てをする難しさ（現実的なお話…）

私自身が子育て家庭になってから思うことは、「忙しい中でも、家族とゆっくり向き合う時間は作ろうと思っていたはずなのに、どうしてこんなに毎日に余裕がないのだろう…」ということです。もちろん皆さんと同じように親になる覚悟や大変さもそれなりに理解していたつもりでした。ただ、私の思い描く理想と現実が違い過ぎた…。「子どもの欲求に対して、特定のおとなが目を見て受け止め、推測して満たしてあげる。これを繰り返す。」を、私は家で中々繰り返せないという現実。(笑)

仕事柄、子育て家庭の方々とお話をすることが多いこともあり、同様の気持ちをお持ちの方が多数いらっしゃることに私は救われております。ただ、私に余裕がない理由は、単純に「やってみよう！」という思うことが多過ぎて、色々なことに手を出してしまうことが大きな原因ではありますが…(笑)。

そして最近になって思うことは、日本の社会全体が家事も含めて働き過ぎなのではないかということです。もっと家事や仕事をする時間が短くても成り立つ社会になったら、子育てに向き合う時間もおとなの自由な時間も少しは確保されるのではないかな…と。それにはまずは、すべてのおとなが短い時間の勤務でも安定して生活ができる給料が必要な気がします。…夢物語ですね。(笑)

## \*園長から乳児期の保護者の皆様へお願い…

私達もなるべく集団での生活とはいえ、個々を尊重し安心できる場所となるよう努力致します。それと同時に、家庭で安心できる保護者とゆっくり過ごす時間が乳児期の子ども達には特に必要だということをご理解いただきたいと思います。

忙しい日々、働き過ぎな日本の社会。その中で子どもとゆっくり過ごす時間を作ることが難しいことも重々承知しております。ただその一方で、特定の大人との関わりは乳児期が一番大事だといわれていることもご理解いただき、できる限りで構いません！早めにお迎えができる時や仕事がお休みの時には、ご家庭と一緒にゆっくりと過ごすことを心掛けていただきたいと思います。また、お子さんが少し疲れている様子の時や体調がすぐれない時にも、できる限りゆっくり過ごす時間を設けていただければ幸いです。

子ども達の成長は私達が想像するよりあっという間です。子どもが大きくなった時に「あの時もっとこうしておけば良かった…」という思いを少しでも減らしていけるよう、一緒に考えていけたらと思っております。園長からのお願いでした。